

どうして詐欺って
気付かないの？

振り込みに
時までに
なくちゃ

おばあちゃん
ダメ！



見本

はじめに

いまだに新聞やテレビのニュースによく登場し、一向に減らない「振り込め詐欺」。

「こんなに話題になっていて、ちゃんと注意しようってみんな言ってるのに、いまだに引っかかる人があるのは、どうして？」と思う事はありませんか。

そして、「ひょっとして、注意力が欠ける人が多いのでは？」などと言う人がいますが、それは本当でしょうか。

20代前半の若者のいる家では、悪質商法のセールスにおびき出す電話が掛かってくる事が時々あります。

「成人になりたての若者を狙って怖い」「どこから名簿が漏れたのか、気持ち悪い」と思うでしょうか。

こんな話題になると、「悪徳商法なんか引っかかるのは、オドオドして、自分の意見をはっきり言えない弱いヤツだけさ。俺なんかには関係ない」などと言う人がいますが、それは本当でしょうか。

中学や高校のクラスメートから久しぶりに電話が掛かったので、久しぶりにファミレスで会う約束をすると、そこには本人の他にもう一人か二人いて、「確実にもうかるビジネス」とか「もっと幸せになる方法」とかの話が延々と始まる、なんて体験をしたことはあるでしょうか。

自分はその話に興味がないけど相手の熱意が何だか異様で、違和感を感じるかもしれません。「こういう異様な空気のビジネスや宗教は初めて見るし怖い」とか、「だまされてる友達を、何とかして助けられればいいのに」と思うでしょうか。

こんな話題になると、「^{いつかくせんきん}一攫千金の怪し

いビジネスとか、怪しい宗教とかに引っ掛かる人は、自分からイエスと答えて、やりたくてやったんだから、100%自己責任じゃないか」などと言う人がいますが、それは本当でしょうか。

まるで手品！

これらすべてに共通しているのは、「人の心を巧みに操って、特定の人やグループの言いなりにさせる」巧妙なテクニックです。「自分はしっかりしている」と思い込んでいる人でさえも巧みな話術で丸め込む、巧妙なテクニックが隠されているのです。しかも、だまされている人に対して、証拠を挙げて「あなたはだまされていますよ」と説明しても、「違う！私はだまされていないし、押しつけられて無理矢理やってるわけでもない」と、まるで聞く耳を持たなくなってしまうことすらあります。

これは言わば、人の心を自在に操る「手品」のようです。本物の手品は人を楽しませるだけですが、詐欺や悪徳商法や悪質な宗教の、いわば「手品」は、屁理屈を駆使して人の心を支配し、金を奪ったり人生をめっちゃめっちゃにする、人間として許されないだましです。

そのような悪の手口に対抗するためには、どうすれば良いでしょうか。ここで、「手品師が一番嫌いな事」は何なのか考えてみてください。そう、その手品師が手品を見せる前に、誰かが「種明かし」をしてしまう

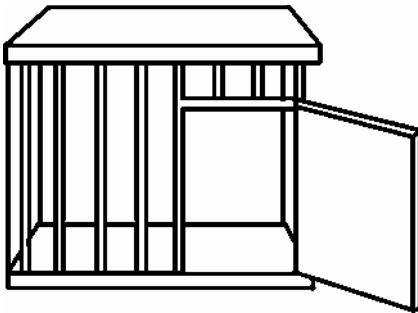
「すぐ終わるから、ちょっと話を聞いて」

「絶対出たくなくなる牢屋」？

まず、本題に入る前に、「準備体操」として、クイズを一つ出そうと思います。

皆さんの中に、「牢屋に入りたい」と思う人はいるでしょうか。まずいないと思います。

しかし、ある工夫をすると、「牢屋にみんなが殺到して、入りきれないくらいになる」し、しかも「牢屋から出そうとすると必死になって抵抗する」ようになります。さて、その工夫とは何でしょうか。――



一つの方法は、「動物園からライオンが逃げた！」というデマを広めることです。すると、途端に「牢屋」は「牢屋」でなくなります。「ライオンの危険から守ってくれる避難場所」になるのです。

超高層ビルの屋上に牢屋を置いたらどうなるでしょうか。「中に入れば絶対に転落しない」と、安心して入ってくれるかもしれません。

いずれの場合も、「牢屋から出ると危険」と思い込んで、出そうとすると必死になって抵抗するでしょう。

「悪の手品師」たちにだまされた人たちが、自分がだまされた事に気付かないだけでなく、周囲の忠告を聞き入れようとしないことは珍しくありませんが、簡単にたどるなら、ちょうどこのような状況に似ているかもしれません。

「悪の手品師」たちがいきなり最初から本題を持ち出すことは、まずありません。

「すぐ終わるから」のつもりが...

「悪の手品師」たちがいきなり最初から本題を持ち出すことは、まずありません。

「数分だけですが、ちょっとお時間よろしいですか？」が口ぐせのことが多いものです。確かに、最初の話は数分で終わるかもしれませんが。しかし、その話には大抵「続き」があるものです。最後は、「ローンを組んで商品を買う」とか「グループの会員になって忙しく活動する」という「落ち」につながっている事は少なくありません。

あるいは、「無料の商品」や「無料のサービス」を提供し、それに関心を持ってくれた人をうまく言いくるめて、もっと高い商品やサービスを半ば押し売りする、なんて事もあります。無料のものを提供すること自体は間違っていないのですが、まっとうな商売だけでなく、「無料でもらって何だか悪いから」という義理を逆手に取った悪徳商法につながっているケースもあるので、注意が必要です。

大学やカルチャースクールでは、ごく一部なのですが、バックに宗教団体のついている「ダミーサークル」が活動している事もあります。いきなり「宗教グループに入りませんか？」と言っても断られてしまうかもしれませんが、「ヨガやヒーリングの教室」

のような宗教色のあまり無いセミナーなら、関心を持つ人が多いかもしれません。一旦そのグループに入ってもらってお友達になった後、宗教の勧誘が始まるのです。

これは、たとえて言うなら「ナンパ」のようなものかもしれません。いきなり通行人に「エッチな事させてください」なんて言うナンパ師はいません。「ちょっとそこでお茶飲んでかない？」と誘うものですが、その「ちょっと」は「ちょっと」で終わらないものだ、という事は、皆さんもよくご存じでしょう。それと同じくらい、この種の商売人も言葉巧みに人を丸め込む「交渉上手」です。

一人ぼっちにさせる！

「悪の手品師」たちは、多くの場合、ターゲットを孤立させます。

昔の級友から久しぶりに電話がかかってきたのでファミレスで会ってみたら、4人掛けの席にその人に加えてボスらしき人の2人や3人で囲まれてしまい、怪しいビジネスや宗教の勧誘が始まってなかなか帰してもらえない、というのはよく聞く話です。

会員権商法や絵画商法などでは、ビルの中に連れ込んで、一人一人に担当者が付いて長いセールストークが始まり、ローン契約書の判を押すまで帰してくれないことがあります。

悪質な自己啓発セミナーや宗教の中には、人里離れた山奥で説明会が開かれるので、逃げようにも帰りの足を奪われてしまうことがあります。携帯もつながらなかったり、預かられてしまうかもしれません。

このように、複数人を相手にする代わりに、一人でいる時を狙うか、一人一人ばらばらに分けて説得する、というのは、「悪の手品師」のよく使うテクニックですが、これ

は、隣の家族や友人と相談する機会を奪って、自分のペースに持ち込むためなのです。ターゲットが複数人だと、隣にいる人に「私も以前だまされそうになったけど、これ怪しいよ」と忠告して、「手品の種」を暴いてしまう危険性があります。このことほど、彼らが恐れていることはありません。

物理的な孤立だけではありません。「おたくの息子や娘がトラブルを起こして金が必要」だと嘘を付くオレオレ詐欺の場合、ターゲットの息子や娘にあらかじめ無言電話をかけて嫌がらせをすることがあります。携帯電話の電源を切らせて、ターゲットが息子や娘に確認しても電話が通じないようにするためです。アダルトサイトをだまった架空請求詐欺では、恥ずかしさから周囲に相談できない事があります。

そもそも、「詐欺や悪徳商法などに自分が引掛かった」事をうすうす感じていたとしても、恥ずかしさを感じて、「自分はだまされてない！」と強く自分に言い聞かせる事はよく見られます。すると、家族が「だまされているんじゃないの？」と言っても、「いや私はだまされていない！」と強く言い張ってしまい、結局、被害が拡大してしまうことがあります。

悪徳商法や悪質な宗教によっては、自分がローンを組んで商品を買ったり、グループに入ったりした事を、しばらくの間他の人に言わないよう説得されるケースがあります。クーリングオフの期限が過ぎたり、グループが教えていることをいっぱい勉強して、家族からの反対に十分抵抗できるだけの力が付くまでの時間稼ぎです。これらも、一種の心理的な孤立状態と言えます。

私たちの身近にもあふれている！

このような「悪の手品」は、誰もが狙われています。しかし、「手品の種」を知っておくことで、ある程度の予防は可能です。

私も以前は、「マルチ商法とかカルト宗教にだまして誘い込むのは、だましの天才が、私たちには理解できない、すごい難しい技術を使うのだ」と思い込んでいました。しかし、「手品の種」を知ってしまうと、その一つ一つは、我々が普段の日常生活で経験したり、一部は自ら使ってしまうことさえある、とてもありふれたものなのです。

私たちの身の回りを振り返ってみてください。

いじめ：「友達がいなくなるかもしれない」という恐れ of の気持ちを利用して、「誰かをのけ者にする」よう操ったり、力のある生徒の理不尽な要求に何でも従うよう操ったりします。

家庭内暴力、児童虐待、過保護：「自分は見捨てられるかもしれない」という恐れ of の気持ちを利用して、また「自分が悪いのだ」とか「家族に何もかも頼らないといけないダメ人間なのだ」という罪悪感や劣等感を植え付けて、子供や配偶者などを自分の思い通りになるオモチャ扱います。「わたしがいい子じゃないから悪いんです！」とか「ママは何もやっていません！ボクが転んで怪我をしました！」と言って被害者が加害者をかばうよう、巧妙にマインドコントロールすることもよく見られます。「マザコン」は多くの

場合、過保護な親によるマインドコントロールの結果ではないかと私自身は考えています(例えば、カルト組織のマインドコントロール自体、「マザコン化教育」のようなものです)。

大学教官の嫌がらせ：「自分は卒業論文で単位を取れないかもしれない」という恐れ of の気持ちを利用して、逃げられないようにした上で、様々な嫌がらせを行い、精神的に追い詰めていきます。

会社でのリストラ強要：会社都合でのリストラも、「自己都合で辞めた」こととするよう巧妙に誘導して、退職金を払うのをケチります。「会社で良い成績を上げなかった」ことなど、とにかくいろいろなあから探しをして、リストラ対象になるのは社員の方の責任ではないか、と巧妙に丸め込みます。退職を拒否すると、「文句を言うなら、すべて完璧にこなして、もっと成果を上げれば良かったのだ」と無理難題をふっかけたり、もっと不利な扱いになる「懲戒解雇」をおわせて脅すかもしれません。

いわゆる「ブラック会社」：「自分は会社で不利な扱いを受けるかもしれない」という恐れ of の気持ちを利用して、毎日朝早くから夜は終電ぎりぎりまで働かせ、しかも「自分の能力が無いのが悪いから残業代は出なくても文句は言えない」と思い込ませて、残業代を払うのをケチります。それに加えて休日もあまり休み無く出勤させてボロボロになるまで働かせた上、会社にとって必要がなくなったら簡

単に解雇します。

痴漢冤罪：身に覚えのないことでも、「今更何を言っても仕方ないし、自分が罪をかぶってでも早く終わって欲しい」という気持ちになるよう巧妙に誘導して、犯してもいない罪を認めさせます。警察としては、何としても「自分たちが捕まえた人が罪をかぶって」くれないと、「自分たちが真犯人を取り逃がした」ことになってしまうので、必死です。この場合は、「マインドコントロール」というよりむしろ暴力的な「洗脳」と呼ぶべきでしょう。

確かに、「人の心を巧みに操って、どんな屁理屈でも自分の思い通りに動かす」巧妙なテクニックが見られるのではないのでしょうか。怪しいビジネスや宗教だけの専売特許ではないのです。

傾向と対策を知ろう

そして、いずれの場合も、まじめで従順な「いい人」、特に「立場の弱い人」を狙った、卑劣な手口と言えます。

「立場の弱い人」がどうにか対抗するには、何よりも「予防」が大切です。どんな手口があるのか、あらかじめ知識として知っておくことで、「心の警報器」のスイッチをオンにすることができます。

経験の少ない時期や、不安を感じている時期は、特に狙われています。大学に入ったり就職したばかりの時期は、悪徳商法やカルト宗教に狙われやすいものです。主婦も、出産や子育てで不安を感じている時期に、特定の療法をすすめるカルト的グループにハマったママ友達が「アドバイスしましょうか」と巧妙に誘うことがあります。高齢者も、老後資金を狙って、様々な

詐欺や悪徳商法に狙われがちです。

このように、詐欺や悪徳商法やカルト組織が「収穫」を得やすい「旬」のようなものがあるので、その時期は特に気を付けてください。

それから、「特定の人やグループの意見をうのみにする事なく、様々な立場の人の意見を聞いたり、ちゃんと自分の頭で考える」訓練も欠かせません。「このグループの主張はちょっとおかしいな」と思った時、そのグループの資料で調べたり、そのグループのメンバーに聞くだけでは、当然、そのグループに都合の良い答えしか返ってきません。違う立場にいる人の意見も求めることが大切です。

この冊子だって、あくまでも一個人の意見に過ぎません。100%信じ込むのではなく、あくまでも「参考資料」としてお使いください。

それでもこのような被害に遭ってしまった方は、これまでよく過酷な状況に耐えてきました。でも、「あなたが悪い」のではなく、「だました人が悪い」ことを忘れないください。この先一生泣き寝入りしなければならない、ということはありませんし、その経験も、今後別の分野で役立つでしょう。

この先、人生の「風向き」がどう変わるか、私たちはまだ何も知りません。「ノー」とはっきり声を上げる「勇気」と「良い時機」そして「心の準備」、そしてできれば「良い相談相手」の助けも得ながら、問題解決に一步でも近づいていくことを、切にお祈り申し上げます。

目次

はじめに.....	4
「すぐ終わるから、ちょっと話を聞いて」.....	6
「不安感」と「安心感」の間で心を揺さぶれ！.....	9
だましを長続きさせよ！.....	13
何とかしてカルト組織から救う方法はないの？.....	21
「グループをやめた人」が狙われている.....	23
私たちの身近にもあふれている！.....	26
付録 ホメオパシー:安全、それとも有害？.....	28
目次.....	30

「どうして詐欺って気付かないの？」

2010年8月15日 初版発行

文・イラスト: 押井 徳馬

本文印刷・製本・発行: はなごよみ
osito2007@bear.plala.or.jp
<http://osito.jp>

表紙印刷: プリントあっぷる

<http://www.printapple.com>